高等学校国語「聞くこと」の学習の実態調査

広島大学教育学部国語科（四年）学力調査班
糸原道江　亀井守正　土井紀子
豊田克也　中田康治　浜本純逸
前田昌則

はじめに
I　調査まで
A　調査の目的
B　調査の種類
C　「聞く力」の調査問題の作成
D　調査対象と調査期日
II　調査の実際と結果
A　高等学校国語「聞く力」の調査
1　調査者の人数
2　時間
3　配点
4　問題と問題別得点分析
5　総合得点の比較
B　ラジオ番組興味調査
1　種目別興味の実態
2　番組別興味の実態
C　高等学校国語教師の「聞くこと」についての考えかた
1　アンケートの内容
2　アンケートのまとめかた
3　アンケート回答の紹介

はじめに

日常生活において「聞くこと」はひじょうにたいせつな役割をはたしています。

ラジオ・テレビ・映画などの発達・普及は新しい「聞く」生活の面を開き、それに応じた「聞く」態度・方法の学習を要求しています。

「国語科において『聞くこと』の学習をどのようにすすめていけばよいか」という問題を考えていくための一つの基礎的作業として、わたしたちは、まず高校生の「聞くこと」

の学習の実態を把握することをめざし、調査を行ないました。

ここにわたしたちの行なった調査の報告をします。

I 調　査　ま　で

A 調 査 の 目 的

「国語科において『聞くこと』の学習をどのようにすすめていけばよいか」を究極の問題として、このたびはそのための一つの基礎的な作業として、次の三点に関して、高等学校における「聞くこと」の学習の実態を把握する。

(1) 高校生の「聞く力」はどの程度あるか。その傾向はどのようになっているか。とくに次の諸点に関してはどうか。

イ　要点を正確に聞きとれるか。

ロ　聞く内容、目的に応じた聞き方ができるか。

ハ　聞いた内容を一つのまとまりとして把握し、全体を想起し、構成、要旨をつかむことができるか。

ニ　高等学校一年と二年生とでは「聞く力」に差があるか。もし、あるとすれば、それはどのような点であり、どのくらいの差であるか。

※批判しながら聞く。話し手の立場を考えながら聞く。それぞれの意見や感想を持ちながら聞く。などの能力の調査の必要性は感じながら、客観的結果を出すことの困難さを考えて、このたびはこれらについてはしなかった。

(2) 「聞く」生活の一面であるラジオについて、高校生はどんな番組に興味を持っているか。

(3) 国語科の先生たちは「聞くこと」の学習指導をどのようにされており、どのように国語科の中へ位置づけておられるか。また、どのような評価の方法をとっておられるか。

高校生個人の評価や診断、学級・学校の評価などは意図しなかった。

B 調 査 の 種 類

三種類の調査を行なった。

1　高等学校国語「聞く力」の調査

2　ラジオ番組興味調査

3　高等学校の国語教師の「聞くこと」についての考え方。

C 「聞く力」の調査問題の作成

(1) 「聞くこと」のあらゆる形態を調査するよう心がけた。

(2) 高校一年程度の「聞く力」が調査できるような問題を選定しようと考えた。

しかし、過去に「聞く力」の調査がほとんどなされておらず、また「聞く力」につい

ての実践報告も少なかったので、その難易の程度については調査班員の経験から判断した。客観的にみて妥当か否かは今後の検討にまちたい。

次のような内容の四つの材料を選び問題とした。

問題一　ホームルームにおける教師の「お知らせ」ということを想定して、班員が作成した。

問題二　昭和三十四年十月に文部省が行なった学力調査の中から借りた。

問題三　NHKの「方言から標準語へ」という放送の中国地方の部分を借りた。

問題四　NHKの「私たちのことば」から借りた。

問題三は放送者（広島大学文学部助教授、藤原与一先生）にテープにふきこんでいただき、あとの三問題は班員がテープにふきこんだ。問題一は男声一名、問題二は男声二名、女声二名、問題四は男声一名である。

問いの形式は、多肢選択法・真偽法などのアチーブメントテスト形式をとって設問した。

D　調査対象と調査期日

1　高校生全体の「聞く力」の程度や傾向を知る。

2　班員七名で実施可能の範囲の調査対象を選ぶ。

3　実施日をだいたい同じ日に、しかも午前中に行なう。

以上の三点を考えて、下記の四校（うち一校は分校をもっている。）と期日を選んだ。

学校	課程		学年	クラス数	生徒数		調査日
広島県立K高等学校	全日	普（共学）	1	3	男 84 女 60	144	2月23～2月26
			2	3	男 92 女 53	145	2、23～2、26
広島県立H高等学校	全日	普・生活（共学）	1	4	男 68 女 131	199	2、18
			2	3	男 85 女 69	154	2、18
〃　H高等学校K分校	定時	普・生活（共学）	1	1	男 3 女 14	17	2、19
			2	1	男 11 女 21	33	
私立　G女子高等学校	全日	普	1	2	女 112		2、22
			2	4	女 217		2、16
私立　H女子高等学校	全日	普	1	1	女 62		2、18
			2	1	女 59		2、15

Ⅱ 調査の実際と結果

A 高等学校国語「聞く力」の調査

1・調査者の人数

調査班員六名ないし二名があたった。一名がテープレコーダーを操作し、一名が問題の説明を行ない、他のものは時間を測るか、あるいは、解答状況を観察した。

2 時間

	問題一	問題二	問題三	問題四	説明	合計
聞きとりの時間	1 分	11 分	14 分	4 分	7 分	50 分
解答の時間	1 分	3.5 分	4 分	4.5 分		

3 配点

問題一				問題二		
(イ)	(ロ)	(ハ)	(ニ)	問一		問二
5×1	5×1	5×1	5×1	(ア) 4×2	(イ) 4×2	9×1
20				25		

問題三				問題四		
問一	問二		問三	問一	問二	問三
4×3	① 2×4	② 4×1	6×1	3×3	2×5	6×1
30				25		

問題三の問二の①および問題四の問一は減点法によった。また、問題二の問一(ア)(イ)について、それぞれについて三つ以上解答したものは0点とした。以上のほかは、正答のみを得点とした。

4 問題と問題別得点分析

各問題ごとに調査者が説明をし、テープにふきこんだ問題を聞かせたのち、解答用紙を開かせて、所定の時間内に答を記入させた。

(1) 問題一について

問題一の説明は「問題一は皆さんへのお知らせです。よく聞いてください。」であった。

問題一は「映画会についてのお知らせ」(告知)である。以下、問題の内容は紙数のつごうで載せられないので、解答用紙をここに書きうつしておく。少しは問題の内容を推定していただけるかと思う。

ここに記録するにあたって、正解を示しておいた。

なお、解答用紙はタテ書きであった。

問題　今の話について、次の問に答えなさい。正しいものの符号を一つだけ〇でかこみなさい。

(イ)　映画はいつ行なわれますか。

1　朝から　　2　三時間目から　　3　放課後　　④　五時間目から

(ロ)　映画を見る前に、まずどこへ集合しますか。

①　運動場　　2　講　堂　　3　体育館　　4　教　室

(ハ)　映画代はいくらですか。

1　二十円　　2　五十五円　　③　三十五円　　4　十五円

(ニ)　映画を終わってからどうしますか。

1　解散して家へ帰る。

2　教室にもどって待つ。

3　その場所に残っている。

4　あとかたづけのため、週番の人だけそこに残り、あとの人は解散する。

【結　果】

	問題											
	イ				ロ				ハ			
	1	2	3	④	①	2	3	4	1	2	③	4
一学年%				77.3	88.5						71.2	
			11.0			8.2			13.7			
		9.6					1.9			8.2		
	0.9							0.9			80.6	2.2
二学年%				83.4	87.8						80.6	
			14.3			9.2			10.0			
		5.6						1.0		7.6		
	1.2						0.2					1.6

一				得点平均	得点率
二				平均点 / 満点	率 %
1	②	3	4		
	83.7			16.3 / 20	81.7
		10.7			
			4.3		
0.7					
	82.5			16.5 / 20	82.5
		11.5			
			5.4		
0					
			全	16.4 / 20	82.1

〇　解答用紙の番号に〇印をした人数の割合を%で記した。

この問題は告知を正しく聞きとる問題である。

(イ)は一学年が77.3%、二学年が83.4%正当である。誤答のなかで③がかなり多いのは、聞きのがして常識的判断によったからであろう。

(ロ)は一学年、二学年とも正答率が高い。誤答はうっかり聞きのがした結果とみてよいだろう。

(ハ)は二学年の正答率が80.6%で一学年の71.2%より少し高い。誤答のなかでは①が多く、映画代と学級費とまちがえたことを示している。

(ニ)はどちらも正答率が高く、誤答として③が多いのは、聞きのがしての常識的解答とみなしてよいだろう。

全般をみて、告知の重要な点はだいたい正確に聞きとれることが分る。問題の内容が短かかったせいもあろう。

(2) 問題二について

問題二は「職場の友だちと学校の友だち」という題で行なった四人による座談会である。テープをかける前に次のように説明した。

「次は定時制の高校生四人が『職場の友だちと学校の友だち』について話し合った座談会です。これは皆さんの意見や感想を求める問題ではありません。話し合いがどのようにすすんでいるかということに注意して聞いてください。」

問一　今の話し合いには、二つの対立した意見がありました。それぞれの主張の理由として述べられているものを、次の(ア)および(イ)の1から6までの中からそれぞれ二つずつ選んで、その番号を○で囲みなさい。

(ア)職場の友のほうがよいとする者の理由

1 学校には同じ境遇の人が集まっている。
②困っているとき、ほんとうに援助してくれる。
3 生活程度が同じで気楽である。
4 一日のうちで長い時間つきあっているので親しみがわく。
⑤ともに苦しみを味わい、お互に理解し合える。
6 学校ではみんなお高くとまっていて、よそいきの友だちしかできない。

(イ)学校の友のほうがよいと主張する者の理由

1 経済的に共通の苦しみを持っている。
②学校ではお互に目前の利害関係で結びつくことが少ない。
3 学校の友とつきあうと、教養を高めることができる、
4 会社では礼儀がやかましくてかたくるしい。
5 一時的なつきあいだから安心していられる。
⑥学校では悩みなどを安心してうちあけられる。

問二　職場の友のほうがよいと主張する意見と学校の友のほうがよいと主張する意見とが対立したあとで、どんな意見に発展したでしょうか。次の1から4までの中から1つ選んで、その番号を○で囲みなさい。

1　職場でも学校でも個人の好ききらいでよい友ができたり、できなかったりするものだ。
2　男どうしとか女どうしとかでなければ、よい友はできるものではない。

③　年令が同じくらいなら、職場でも学校でもよい友はできるものだ。
4　ものの考えが似かよっていれば、性別や年令の違いがあっても、よい友はできるものだ。

この問題は話し合いにおける、いろいろの意見を正確に理解し、それがどのように発展していったかをつかむ問題である。

まず問一について考えてみよう。この問は二つの対立する意見における、それぞれの主張の理由をたずねたものである。

一学年、二学年とも正答の②⑤②⑥はかなり率が高いけれども、誤答率も多い。これは常識的な判断によった結果だと思われる。

つぎに問二について考えてみよう。

この問は二つの対立する意見がどんな意見に発展したかをたずねたものである。

正答率は一学年が60.9%、二学年が57.8%でかなりの率であるが、④の誤答率が高いのは録音の不良なためもあって、常識的な判断によったからではないかと思われる。

【結　果】

	問題											
	問一											
	ア						イ					
	1	②	3	4	⑤	6	1	②	3	4	5	⑥
一学年%					75.3							80.5
		55.2						47.6				
				33.9			32.6					
	17.3								17.6			
										9.9		
			10.2			1.5					4.9	
二学年%					71.0							79.4
		60.6						53.9				
				28.4			23.7					
	15.8								17.6			
			11.8							11.4		
						4.5					3.8	

問二				得点平均	得点率
1	2	③	4	平均点/満点	率 %
		60.6		15.6/25	62.2
			36.1		
4.7					
	0.2				
		57.8		15.6/25	62.6
			37.0		
4.9					
	0.3				
全				15.6/25	62.4

得点率をみると、変化していく話についてゆき、結論をききとるのはむずかしかったようである。

(3) 問題三について

問題三は「方言から標準語へ」という題で行なった放送である。わたしたちはこれを講義の一種とみなした。

テープをかける前に次のような説明を加えた。

「NHKの国語教室『方言から標準語へ』の中国地方の部分を再録したものです。なおこの問題からはメモ用紙（ザラ紙半枚）を使ってもいいです。」※メモ用紙は記名して提出してもらった。

問一　次の三つのことばは、どういう意味だったでしょうか。正しいと思うもの一つに○をしなさい。

(イ)　スバナシ
- 1　すみません。
- 2　下着なしで、あわせのきものをじかに着る。
- 3　すばらしい。
- ④　話ばかりで、お茶もなく、あいそがない。

(ロ)　シロミテ
- 1　田を植えてしまう。
- 2　城を見ること。
- 3　白い手
- 4　広めること。

(ハ)　リョール
- 1　仕事をじょうずにする。
- 2　太くする。
- ③　料理する。
- 4　雨が降っている。

問二　(1)　次のうち中国地方の方言の副詞の符号を○でかこみなさい。

(イ)ナオノコト　(ロ)ナオト　(ハ)ワザニ　(ニ)ワザト　(ホ)ボッコー　(ヘ)オッコー　(ト)ヒドク　(チ)バカニ

(2)　次の形容詞のうち、鳥取県方面のものの符号を一つだけ○でかこみなさい。

(イ)ヤゲロシー　(ロ)アセロシー　(ハ)ジュルイ　(ニ)ツメシー　(ホ)サガイ

問三　標準的なことばをつくり出していくとき、どのようにすればよいと放送者は考えていますか。次の三つのうち、正しいものの符号を○でかこみなさい。

(イ)　方言と標準語とを区別しないで、何でも話していると、しだいに標準的なことばに近づく。

(ロ)　各人がくふうして、いろいろないいあらわし方を思いきってやってみて、自然に標準的なことばを育てていく。

(ハ)　標準的なことばというものは、東京語だけからつくればよいのであって、農村、山村、漁村のことばは考えなくてもよい。

			一学年 %								二学年 %							
問題三	問一	イ 1				3.0								3.0				
		イ 2		26.6								26.0						
		イ 3			16.5								24.1					
		イ ④	51.9								45.3							
		ロ 1	93.3								90.3							
		ロ 2			1.7									0.2				
		ロ 3				1.1							2.5					
		ロ 4		3.6								4.0						
		ハ 1		22.8								23.4						
		ハ 2				9.0								8.2				
		ハ ③	38.0								37.4							
		ハ 4			18.7								21.3					
	問①	イ							15.9								18.3	
		㋺					20.9								38.9			
		㋩			43.0								44.6					
		ニ				39.3								42.5				
		㋭	66.9								37.8							
		㋬		53.6								47.8						
		ト								7.1								12.5
		チ						28.8								31.6		
	問②	イ			17.8									21.3				
		ロ				12.9									15.8			
		ハ		25.1								26.5						
		ニ					4.9								5.8			
		㋭	38.8								36.9							
	問三	イ		3.4								4.8						
		㋺	93.7								92.1							
		ハ			0.9								1.2					
得点平均	平均点 / 満点		16.8 / 30								16.3 / 30					全体	16.5 / 30	
得点率	率 %		55.9								54.2						55.0	

問一、問二はメモをとりながら小さな事柄ものがさないように正しく聞きとる力をみる問題である。そのうち問一は一つ一つのことばを注意して聞く力を、問二はことばを整理して聞く力、たとえば共通語と方言とをはっきりと聞きわけたり、とりあげられる例を地域別にまとめて聞く力などをみるのである。

まず問一について考えてみよう。

(イ)の正答率は一学年51.9%、二学年45.3%で低い。誤答の方をみると②が多く③もかなりある。②は「スアワセ」のことである。録者の不良で聞きとりにくかったことと、「スバナシ」「スアワセ」が名詞のところで続けてとりあげられていて、しかも「スアワセ」の方が興味深く話られていたために、混同して②が多くなったのでなはいかと思われる。

㈢をあげたのは音声的に近いからである。

㈤の正答率は高い。これは説明がかなりくわしく、印象的で、しかも「シロミテ」の「ミテル」などが広島県では身近なことばだからであろう。

つぎに問二について考えてみよう。

①の正答率をみると、一学年、二学年とも「ホ、ヘ、ハ、ロ」という順になっている。珍らしいことばの例は正答率が高いようである。誤答のなかで、㈡㈥が意外に多いのは、方言を共通語と関連させながら説明されたので、混乱したのではないかと思われる。このあたり、メモも正確にとれていない。そのため記憶をさぐりながらいいかげんに答えた傾向がみえる。

②の正答率は低い。地域別に聞きわけてメモしておく力が弱いためと思われる。㈦ジュルイが多いのは中国地方の副詞として話されたからであろう。

おわりに問三について考えてみよう。

正答率は非常に高い。話のおわりに、はっきりと要点が述べられたからであろう。なお、この問三はこの話の要点をつかむ問題である。

要点は聞きとれるが、引用例と本論との区別、引用例の本論にしめる重要性に気づいていないと思われる。

問題四はNHKの「私たちのことば」の一編である。私たちはこれを文芸的な内容文章の朗読とみなした。テープをかける前の説明は次のとおりである。

「つぎはNHKのある朝の『私たちのことば』の一編です。メモをとってもいいです。」

問一　ペン源さんについて述べられていますが、正しいと思うものの番号を○で囲みなさい。

1　ペン源さんというのはペン屋の〝やまだげんぞう〟さんのことである。

②　ペン源さんは戦災で家族をなくした。

3　ペン源さんは子供好きだったが、町内の人々にはあまり親しまれなかった。

④　ペン源さんは、いつもボロボロの印バン天を着ていた。

5　ペン源さんは、昨年の十二月の末に胃ガンで死んだ。

⑥　ペン源さんは死んだとき、ふとんの下に葬儀代と寄附金と合わせて八千円もの金を残した。

問二　話の順に □ の中へ番号を入れなさい。

4	ペン源さんへの感謝、尊敬。
2	ペン源さんの死。
1	ペン源さんという人。
3	ペン源さんの遺言
5	ペン源さんの影響

問三　この話の中心として適当だと思うもの一つをえらんで、その番号を○で囲みなさい。

① 身寄りのない自分を自覚して、葬儀代を用意し、その上、死にゆく自分の枕もとに寄附金まで残していったペン源さんの善行は人々の心をうった。

2 ペン源さんは戦災で家族をなくし、身寄りもなく、ただひとりまずしく暮していたが、非常な子供好きで町内の人々からはたいへん親しまれていた。

3 身寄りのない源さんは子供好きで、人々から非常に親しまれていたが病気にたおれ、葬儀代や寄附金を枕もとに残して死んでいった。

4 ペン源さんは子供好きで人々から親しまれていたが、まずしい暮しをしていたので、死の床に葬儀代や寄附金が残してあるのをみて人々は驚いた。

			一学年					%	二学年					%
問題四	問一	1				49.4						51.9		
		②		81.6							75.8			
		3					2.4						9.4	
		④	85.0							83.0				
		5						2.0						1.3
	問二	⑥			80.9				83.5					
	4 2 1 3 5		47.7						54.4					
	5 2 1 3 4			24.7						18.9				
	5 3 1 4 2				14.6						12.0			
	2 3 1 4 5					2.8						2.6		
	5 4 1 3 2						1.9							1.3
	3 2 1 4 5							0.9					1.6	
	その他(30)略													
	問三	①	81.1							87.0				
		2			5.8								3.8	
		3				4.5						4.0		
		4		8.9							6.6			
得点平均	平均／満点		17.8／25						18.2／25				全体 18.0／25	
得点率	率 %		71.1						72.9				72.1	

まず、問一について考えてみよう。この問いは話の中心になる人物についてたずねたもので、細部に注意して聞いているかどうかをみるものである。正答率は②④⑤とも高い。①の誤答率が高い。①の誤答率が高いのは「ペンキ屋」と聞いても、解答用紙には「ペン屋」となっているのに気がつかなかった結果、あるいは気がついても「ペンキ屋」のミスプリントだと思って正しいとした結果であろう。ここでは「ペン屋」という名詞の不適も指摘できる。

つぎに問二について考えてみよう。

この問は話の構成をとらえているかどうかをみる問題である。

正答率は一学年47.7%、二学年 54.4% である。誤答のなかで多いのは（5、2、1、3、4）と（5、3、1、2、4）である。この組合わせが出てきたのは「ペン源さんの影響」という文の「影響」ということばの解釈の違いによってであろうと思われる。ここで用いた「影響」というのは、「ペン源さんの善行が無言の教訓となって人々が歳末助け合い運動に協力した」ということをさしているのである。

さいごに問三について考えてみよう。

この問は話の主題をとらえているかどうかをみる問題である。

正答率は一学年81.1%、二学年87.0%で高い。この話の主題はペン源さんの善行そのものではなく、その善行が人々の心をうったということ、そのことである。この点をよく理解して聞いたとみてよいのではないだろうか。

問題三、問題はメモをとってもいい、ということになっていたので、ほとんどの人がメモをとったようである。説明の聞き方によって義務的にメモをとった人もあったようである。

メモを多くとっている者ほど細かな問題がよくできている。

メモをとっている者はメモだけに頼り、聞いている途中で記憶しない傾向もあるようである。その人々はメモしている点に関する設問には解答できるが、メモしていない点に関してはぜんぜん解答できない。

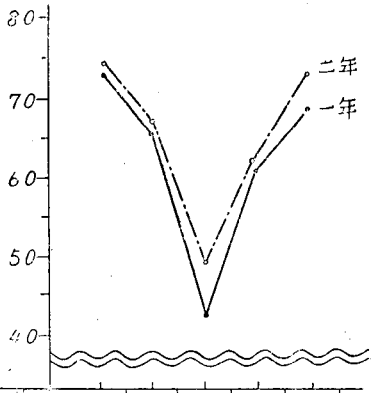
5 総得点の比較

(1) 平均点・最低点

	平均点						最高点		最低点	
	全校	男女別	1年		2年		全校		全校	
K高	73.7	(男)72.5 (女)75.5	73.0	(男)72.4 (女)73.8	74.4	(男)72.7 (女)77.4	96	(男) 92 (女) 96	41	(男) 41 (女) 51
H高	65.9	65.1 66.5	65.8	65.7 65.9	66.1	64.7 67.8	91	90 91	29	29 37
H高 K分校	46.1	44.5 46.6	42.9	46.3 42.1	49.9	49.3 50.2	72	68 72	13	21 13
G女子高	62.0	——	61.0	——	62.5	——	92	——	21	——
H女子高	71.3	——	69.3	——	73.4	——	91	——	36	——
全	66.2	67.6 65.6	66.4	69.0 65.4	66.6	67.7 66.2	96	92 96	13	21 13

共学の普通課程ではどの学年でも、男子より女子の方が成績のいいことがわかる。

(2) 学年別得点状態（平均）



全般的に見て、一年よりは二年の方が、2点ないし3点ずつぐらい得点が多い。学年の上がるに従って「聞く力」も伸びると考えていいようである。2～3点の差では統計学的にみて、あるいは調査対象の人数など考慮すると、確言はできないけれど。

得点＼学校	K高	H高	KH高	G芸高	H芸高
一年	73.0	65.3	42.9	61.0	69.3
二年	74.4	66.1	49.9	62.5	73.4

(3) 得　点　分　布

		男子								
		11～20	21～30	31～40	41～50	51～60	61～70	71～80	81～90	91～100
一年	人数			1	10	21	51	49	21	2
	%			0.6	6.5	13.5	32.9	31.6	13.5	1.3
二年	人数		1	2	8	18	46	54	29	2
	%		0.6	1.3	15.0	14.3	28.8	33.8	18.1	1.3
		女子								
		11～20	21～30	31～40	41～50	51～60	61～70	71～80	81～90	91～100
一年	人数		3	13	32	78	116	93	36	5
	%		0.8	3.4	8.7	20.6	30.6	24.51	0.3	1.3
二年	人数	2	3	12	28	76	120	106	41	7
	%	0.5	0.8	3.0	7.1	17.2	30.4	26.8	10.4	1.8

(4) 得点分布と国語科成績の相関表

K高校にとくにお願いして1年B組、2年E組の2クラスの国語科の成績を5段階に分けていただいた。ここでは国語科の成績と「聞く力の調査」の結果とどのような関係があ

るかを調べてみた。

K 高 校 1 年 B 組

成績＼素点	41～50	51～60	61～70	71～80	81～90	91～100
5				2	1	2
4		1	2	6	1	1
3		4	10	12	2	1
2						
1						

男 子 19名　　女 子 26名

K 高 校 2 年 E 組

成績＼素点	41～50	51～60	61～70	71～80	81～90	91～100
5			1	3	1	
4		1	3	6	2	
3	1	2	10	7	6	1
2		1	2	1	1	1
1						

男 子 22名　　女 子 28名

だいたいの傾向として、国語科の成績のいい生徒は、「聞く力の調査」でもいい点をとっていることがわかる。

1年生の91～100の間に成績4の生徒が1名いる。この生徒の得点は全校最高点で96点である。

この生徒の座席はテープレコーダーにもっとも近い所にあった。テープレコーダーの近さが「聞く」ときの緊張を要求したのかもしれない。とにかく、この事実によって、「聞くこと」が、大きく座席に関係あることがうかがえると思う。

B ラジオ番組興味調査

次のようなアンケートを配布して、種目別、番組別の好ききらいを記入してもらった。

ラジオ番組興味調査

＿＿＿＿高校＿＿年＿＿組　男・女

氏名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿（満＿＿才）

	種目	番組名	好き	きらい	どちらでもない
1	ニュース天気予報				
2	時事解説				

アンケートに回答をお願いしたのは「聞く力の調査」の対象と同じであるが、わたしたちの手ちがいから、1年男子68名、2年男子87名1年女子240名、2年女子300名、計659名しか集計できなかった。

1　種目別興味の実態

程目別「好き」の割合（学年及び性別）

	種目	1年男	2年男	1年女	2年女	全
1	ニュース・天気予報	44.1%	51.7%	54.9%	56.5%	54.1%
2	時事解説	25.0	30.7	12.2	15.5	17.2
3	社会番組	17.6	17.2	11.3	18.9	15.9
4	農事番組	4.4	4.6	2.9	5.7	4.5
5	婦人番組	0	2.3	10.3	19.9	12.4
6	幼児・児童向け番組	4.4	13.8	21.9	16.3	16.8
7	教養番組（ラジオ講座他）	22.1	17.2	20.2	21.3	20.3
8	舞台中継	4.4	17.2	25.3	25.2	22.2
9	放送劇	58.8	47.1	72.6	71.2	67.5
10	演芸番組	50.0	51.1	50.0	52.5	51.2
11	クイズ番組	35.3	42.5	55.4	63.8	55.6
12	歌謡曲・軽音楽	57.9	63.6	69.4	70.3	67.9
13	洋楽番組	11.8	23.0	18.2	27.2	22.1
14	スポーツ番組	57.4	58.6	52.7	49.3	52.4

	一男		一女		二男		二女	
3	県民の声	5/33	国会討論会	15/49	国会討論会	7/35	私たちの言葉	14/67
社	放送討論会	4	放送討論会	5	放送討論会	7	社会の窓	9
会	政府の窓	3	街頭録音	4	社会の窓	4	国会討論会	7
番	国会討論会	2	社会の窓	3	明日への課題	1	放送討論会	7
組	社会の窓	2	私たちの言葉	3	国会の時間	1	政府の窓	3
7	NHK高校講座	13/35	話の泉	15/71	NHK高校講座	14/31	話の泉	12/78
教	百万人の英語	5	英語講座	10	英語会話	5	NHK高校講座	11
養	話の泉	4	NHK高校講座	9	教養特集	3	教養特集	9
番	英語会話	4	英語会話	9	若い世代へ	3	若い世代へ	9
組	若い世代へ	4	若い世代へ	7	私は誰でしょう	2	英語会話	7
9	一丁目一番地	28/91	お父さんはお人好し	75/223	お父さんはお人好し	29/99	お父さんはお人好し	57/250
放	お父さんはお人好し	27	一丁目一番地	44	一丁目一番地	18	一丁目一番地	57
送	犯人をあげろ	21	犯人をあげろ	27	犯人をあげろ	11	名作アルバム	48
	名作アルバム	10	名作アルバム	17	名作アルバム	9	犯人をあげろ	29
劇	日曜名作座	8	名作劇場	11	明日開く窓	7	愛の大河	25
10	漫才	27/89	落語	22/175	落語	21/88	漫才	51/146
演	落語	26	漫才	22	漫才	18	落語	32
芸	お父さんはお人好し	9	浪曲	18	放送演芸会	9	かしまし娘捕物帖	14
番	浪花演芸会	8	お父さんはお人好し	14	ラジオ寄席	8	浪曲	13
組	ラジオ寄席	7	浪花演芸会	12	浪花演芸会	8	夫婦善哉	8
11	私は誰でしょう	41/79	私は誰でしょう	91/183	私は誰でしょう	45	私は誰でしょう	112/218
クイズ	ここはどこでしょう	19	ここはどこでしょう	37	話の泉	24	ここはどこでしょう	48
	ピヨピヨ大学	16	ピヨピヨ大学	32	二十の扉	19	話の泉	39
番	二十の扉	11	話の泉	29	ここはどこでしょう	19	ピヨピヨ大学	20
組	話の泉	10	クイズの王様	19	とんち教室	10	クイズの王様	14
12	電話リクエスト	25/95	街のメロディー	31/21	電話リクエスト	20/119	電話リクエスト	36/232
歌謡曲・音楽	東芝ヒットパレード	19	電話リクエスト	30	街のメロディー	15	花の星座	24
	今週のベストテン	15	平凡アワー	19	花の星座	10	街のメロディー	21
	街のメロディー	12	三つの歌	16	東芝ヒットパレード	8	三つの歌	10
	花の星座	10	東芝ヒットパレード	11	ドリームミュージック	7	おうむの歌くらべ	9
14	野球実況	54/107	野球実況	59/165	野球実況	40/109	野球実況	62/161
スポーツ	相撲	32	相撲	57	相撲	26	相撲	35
	スポーツニュース	27	スポーツニュース	41	スポーツニュース	18	スポーツニュース	26
	スポーツ実況	14	カープタイム	8	スポーツだより	11	カープタイム	19
番組	カープタイム	11	駅伝	7	スポーツ広島	7	スポーツだより	14

2 番組別興味の実態

次の調査に生徒が「好き」のところに書いた番組名を集め、そして多いほうから5位までとり出したものである。種目の3、7、9、10、11、12、14、について調べた。

なお、各番組の一位の人数を分数にしているのは、分母がその番組を「好き」と答えた数である。「3 社会番組」のばあい、社会番組を「好き」と答えた生徒数が33名で、そのうち、5名が「県民の声」をあげたのである。

—（別表折込）—

「広島県高等学校放送教育研究会・資料」（昭和34年11月27日）によると、海田高校における調査は下記のようになっている。わたしたちの調査結果と比較参照すると、よりいっそう高校生の興味のありかたがわかると思われたので、ここに引用させていただいた。

〔家庭でよく聴く番組〕（同、資料13ページ）

A 番組別順位　　B 分類百分率

	男	女	種別	男(%)	女(%)
1	歌謡曲	歌謡曲	歌謡曲および軽音楽	25.6	35.0
2	歌謡曲スポーツ放送（主として野球）	放送劇「愛の大河」	ドラマ	23.0	32.1
3	落語・漫才	お父さんはお人好し	クイズ番組	15.6	3.5
4	話の泉	落語・漫才	スポーツ実況	13.8	8.0
5	お父さんはお人好し	三つの歌	浪曲、落語、漫才	10.9	13.0
			その他	11.1	8.4

C 高等学校の国語教師の「聞くこと」についての考え方

1 アンケートの内容

高等学校国語の先生に「聞くこと」の学習指導について、下記のようなアンケートを送付し、記入していただいた。

アンケート

校　　制（高・中）　　学年（一、二、三）

(1) 国語科の学習において、聞くことの学習をどのようになさっていますか。
（目標、内容、資料、方法などについてお知らせください。）

(2) 聞くことの学力をどのように評価なさっていますか。
（内容、方法などについてお知らせください。）

(3) 生徒の聞くことの学力の実態について、おきづきがあれば、お教えください。

(4) 教科書における聞くことの学習資料について、どうお考えになっていますか。

(5) 聞くことの学習の望ましいありかたについてお知らせください。

2、アンケートのまとめ方

このアンケートをまとめるにあたって、できるだけ先生がたのご意見をそのまま紹介するように努めた。なお、直接答えとして該当しないものは省略した。

1、2、3、4、5の問いに答えていただいたのを、そのおのおのの意見について、①②③……とわたしたちが類型に分けた。その意見のなかに○印をつけて引用したような先生がたのご意見があったわけである。

なお、返ってきた69通のうち、書いていただいた43通のアンケートについてまとめた。また、43通の中には1、2、の問題についてはお答えいただいたが、3、4、5、についてはお答えいただけなかったというようなものがあり、結局、1については40通、2については26通、3、4、5、については24通のアンケートを分析してまとめた。

3 アンケート回答の結果

1、国語科学習において、聞くことの学習をどのようになさっていますか。

①テープレコーダーを使用して聞くことの学習を行なっている。または行なったことがあるもの……8

○毎時間はじめ5～10分テープレコーダーを使用してきき取り、ノート発表。

○ときどき朗読などにテープを使っています。〝能〟の教材などとくにテープの必要を感じます。

○単元で小説を扱う場合、ラジオからの録音によって朗読の研究をしながら、きくことの教育をあわせ行なう。

○二年甲、古典劇の世界という単元の中の「修禅寺物語」をやったとき。NHK第2放送舞台中継の時間、新国劇の上演したのが放送されたのでテープレコーダーで録音して置いて生徒に聞かせて感想をのべさせ、その後教科書をよんでいき、再び録音をきかせた。放送劇など一回聞いただけの理解の仕方と内容をはっきり掴んでから聞いたとき理解の仕方は小説を読んだのと原作を読まずに映画化されたのを観たのとの違いなどと考え合わせておもしろかった。

○テープレコーダーを一時使用したが進学準備は急を要するのでゆっくりできなかった。

②授業の実際に即してきくことの学習をすゝめる。……7

○毎時間の授業は聞くことの学習をしているわけである。教師の話のうち要点をききとってノートすること。学習者同志の話し合いをきき、自己の意見を発表すること。

○授業で他事に関心を奪われないよう注意して話をきけるよう態度はやかましく言っています。

○すべての授業においてきく態度の養成は強く指導しています。

○演習ですから演習者の発表をよく聞いていないと質問も反論もできません。それでとくに聞いているといった程度でとくに聞くことについての指導はしていません。評価もその時に説明、質問、反論、討論をいかに聞いているかということについて行ないます。

○できるだけ一度で聞き分けるように、日常よく注意している。

③話すことと並行して行なう。……6

○生徒間の論議をやらせるのできくことの効果はあろうと思います。

○できるだけ討論、批評会を行なうことにしている。

○他人の発言を正しく聞き、その要旨をまとめさせ、ひいてはそれに対する各自の反応を呼び起させる。

○友人の発言をそのとおり（間違っているのも）反復させる。

④NHKの学校放送を利用して行なう。……3

○学校放送を聴取させ残余の時間に討議したり感想を書かせたりします。

○HRで青年期の探求などを学校放送できき、話し合う程度である。

○学校放送（NHK）を全員に聞かせていますが、その処理はなかなかできません。

⑤朗読や問答をとおして要点をとらえさせる。……5

○要点をとらえて、客観的に聞くことを目標にしている。批評までは手が及ばない。

○メモをとる練習、重要なものとそうでないもの、話の中心と例話の区別をすべく練習。

○文章を読んでその内容をとらえさせるという練習的な方法をとりました。

○講演のあと、どのように内容を把握したかをしらべる。

○生徒教師間で質疑応答して、適当なところで、その要約をノートさせる。

⑥その他……4

○内容理解より、耳からきいて、全体の感じをうけとらせることに重きをおいて詩教材、その他、私の朗読をしばしば試みています。

○黒板の板書をやめてみてはと思う時もある。

○横の連絡をとり、すべての先生に指導していただいている。

○校長談話などを思い出させて発表させている。

⑦特別には行なっていない。……14

2、聞くことの学力をどのように評価なさっていますか。

②ノート提出による……9

○月一回ずつノート検査をしどの程度話の内容を理解しまとめているかによって大まかな評価をしている。（ノートさせる部分はこちらでひかえておく。）

○ノート検査によって板書以外のことをどれだけ聞きとったかを評価する。

○ノートの提出を年二、三回行ないます。その時、板書以外にどの程度の肉がつけてあるか、私の講義その他の記入程度を調べることによってある程度「聞く」力の評価もできるかと思います。

②メモ提出による評価……1

○一定時間をきめて話をし、要点をとらせ提出させる。

③一問一答法による評価……1

○一問一答法による評価をする。

④筆記試験に加味して評価していく。……3

○前期後期3回ずつテストしますが、そのテストに聞くことの学力の評価も含めます。

⑤聞くことの評価は特別にはやっていない。……11

○ほとんどやっていません。ただ聞く態度の身についていない者はおのずから試験の答案に表われて来ます。それによほど悪いものは正常の挙動に現われもしますので。

○聞くことだけでは評価していません。聞く能力はそのまゝ国語総合能力となり成績上位の者はさすがに、よく聞き理解しているようです。

3、生徒の聞くことの学力の実態について、お気付きがあればお教えください。

①能力がある。……1

○国語科の能力あり、努力しだいで正しうる。

②他の分野にくらべて劣っている。……4

○ききかえしができない点もありますが、かなり他の分野にくらべて劣っている。

○一番劣っているものと思う。

③要点をとらえる力が劣っている。……7

○聞きながら要点をとらえる力が劣っている。

○程度の低い子は注意力散漫で話の要点などつかめない。ただ部分的なことのみ記憶している。

○部分的把握しかできない生徒が多い。

○重要な点とそうでないものとの区別のつかないもの多し。

④その他……14

○聞くことについての関心は低い。

○きき違えなどもかなり多く板書してやらないと完全ききとりができないようです。

○メモのとり方がへた。

○聞くことの学習になれていない。

○観念的な話を想像力を働かしながら、聞くことができない。反して身近な問題についてはきわめてよく理解する。

4、教科書における聞くことの学習資料について、どうお考えになっていますか。

①現状で適当である。……3

○大学入試に懸命な生徒のため、主として、読解に力を注ぐ現状。高校二、三年は現状でよいのではないでしょうか。

○適当だと思う。（角川、国語一）

②教材化への疑問……4

○教科書という形できくことの学習資料を与えるということがドダイ無理なことのように思います。

○高校での必要度には疑問を持っています。

○注意が全くはらわれていないといっても過言ではないが、教科書では充分望めないだろう。

③教材は改良の余地がある。……4

○抽象的な理論がほとんどで聞くことの技術といったような具体的な言語技術の習得ということには力の注ぎようが足らないと思います。

④その他……2

○学習資料もさることながら要は各時間時間においてどうきく学習へ発展させるかという教師の側の計画による。

5、聞くことの学習の望ましいありかたについて考えをお知らせください。

①教具の充実をはかる。……5

○テープレコーダー等の教具を活用し、立体的な学習指導を行なうべきである。

○学校放送、視聴覚教具などを利用したい。また教材の充実がのぞまれる。

②教師が正確に話す技術を身につける。……5

○まず教師自身が正しくはっきりと明確に話すようにありたい。（常にそのものズバリの表現に努力し、それができるようになることが、生徒のきく能力をたしかめ、正しくまとめてきく学習へ通じると考える。）

③話す力を伸ばす……5

○レクチュアー、問答法でなく、話し合いの教室にすると聞くことに対する問題意識も生まれ、練習になると思う。

○生徒自身が自由に発表し、討論することができるようになればうまくいくと思います。

○よき話し手は聞き上手であるといわれているが実はそうありたい。つまり上手に話せるようにしてやることだと思います。小生そのために、生徒が問題を提出すると、それを他の生徒に答えさせる。（どうしても何かを話させる。）そんな癖がつくと皆よく話すようになる。

④その他……10

○真面目で注意力ある態度と習慣を毎時間の授業をとおして養うようにする。

○書きながら聞く要領を教えること。

○中学校で話すことの学習とともに正しく身につけておくべきではないでしょうか。高校ではそれを応用する（つまり現実に生かす）段階にあるとと思います。

〔付　記〕

この調査をまとめるにあたって、下記の資料を参考にさせていただきました。

○「国語の学力検査問題の作成に関する研究」（国立教育研究所紀要第一集）国立教育研究所　清水書院　昭和25年7月30日発行

○「全国学力調査報告書国語・数学昭和31年度」文部省調査局調査課　大蔵省印刷局　昭和32年度7月10日発行

○「国語教育における聞きとり方類型の研究——小学校低学年を中心として——」東京教育研究所内国語教育研究会　東京書籍株式会社内東京教育研究所　昭和32年11月1日1日発行。

（昭和35年3月10日初稿・昭和35年9月1日改稿）